

第2次富山市総合計画審議会「第3回 協働・連携部会」 議事録

日時：2016年1月6日（水）10:00～11:30

場所：富山市役所 第4委員会室

出席者：（順不同）

中村和之	富山大学経済学部学部長・教授（部会長）
今井壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢みる会理事長
梅田ひろ美	富山商工会議所女性会会長
大間知雄三	公募委員
上口勇三	大沢野地域自治振興連絡協議会会長
川田文人	一般財団法人北陸経済研究所理事長
高田敏成	細入自治会連合会会長
谷井光昭	富山市自治振興連絡協議会会長
宮口侗廸	早稲田大学教育・総合科学学術院教授
吉田良雄	山田地域自治振興会会長

企画管理部 上谷理事、西田次長、酒井参事、清水主幹

財務部 竹内理事

市民生活部 清水次長

議会事務局 船木次長

大沢野総合行政センター 森江次長

山田総合行政センター総務振興課 岩杉課長

細入総合行政センター総務振興課 竹井課長

議事内容：

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 第2次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第2次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明

○資料「地域コミュニティの現状と課題について」に基づき市民生活部より説明

委員

- ・ P8「④高次都市機能と産業の集積を活かした活力づくり」の追記部分、「天然のいけす」とも言われている富山湾についてももう少し強調したほうがよいのではないか。基本計画のほうになるが、漁港の整備なども重要。富山湾の価値を強調したほうがよい。
- ・ P12「②少子高齢化と人口減少への対応」で、空き家の問題をどこかに書いておく必要があるのではないか。昨年、放置された空き家への行政の代執行等が可能になる法律も改正された。富山市でも

空き家の問題は増えている。

- ・ P14「⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造」で、「他地域の文化の流入により、(中略)富山らしさを失う」との表現は少々品がないと感じる。他地域の文化が流入してくるのは当たり前なので、それを鎧に身を固めて守るのは格好良くないので少し表現を検討してもらいたい。

部会長

- ・ 他地域からの文化が流入し、衝突しながら新しいものが生まれることが文化だといえる。表現が少し閉鎖的ではないか。

委員

- ・ どこに入ればよいかはわからないが、富山市として品格のある都市景観の形成に努めているということを入れてほしい。
- ・ 市民協働による共生社会を目指す中で、「協働」という言葉が当然のように使われているが、「協働」の意味について市民がどこまで認識しているのかわからない。「協働」とは何かの説明が必要。

部会長

- ・ 都市景観については非常に重要。入れるところは新たに節を設けることはないが、どこかで言及したほうがよい。
- ・ 「協働」は狭い意味で捉えられてしまうかもしれないが、基本構想の中で取り上げられるようなコンセプト的な意味を持つ。市民主体のまちづくり等、今までの一方的な行政と住民という関係とは違うということを示す「キーワード」である。⑩市民協働による共生社会づくりのところや、もう少し前段で言葉を補う。

委員

- ・ 市民から見るとそもそも協働で何をすればよいのか、誰に聞けばいいのかわからない。自治体と地域が問題を解決するというをまず考えて、具体的に何をすればよいのか等を話し合わないともできないのではないか。

部会長

- ・ その意味でも、協働とは何を指しているのかを考える必要がある。
- ・ 基本構想の中で協働の大切さ、必要性を位置づけた上で、具体的にやるべきこと、問題点についてのは、基本計画のレベルか実施計画のレベルかでされるべきであろう。基本構想では方向性を定めなければいけない。伝わるようにすることが我々の部会のポイントでもあり、基本構想の中でもきわめて重要。

委員

- ・ 少子高齢化、安定した生活を送れるということが最後の目標になると思うが、ここに書いてあることはすべて必要なことで、あまりにも常識的。実際にこれで対応できるのか非常に疑問。島根大学の藤山氏(島根県立大学連携大学院 藤山 浩 教授)の田園回帰 100%戦略というものがあるが、かなり具体的に提案がなされており、比べてこの素案は、目標達成のためには弱く、物足りない印象を受ける。
- ・ 地域が地域だけで解決するのは難しい。成功例の情報交換や人の交流を考える必要があるのではないか。

部会長

- ・ 基本構想を受けて、基本計画、実施計画が策定され、その個別の資料の中で目標達成に向けて具体的に検討することが重要であろう。基本構想、基本計画、実施計画を経て総合計画までの PDCA を考えることも大切ではないか。

委員

- ・ そこに協働という考え方を入れていただきたい。そうしないと協働の中身がどうなるのか明確にならない。

部会長

- ・ よりどころになるのが基本構想なので、市民に伝わる形にしていかなければいけない。
- ・ 富山市内の細かなコミュニティ同士での連携、富山市と他の自治体との連携なども重要であろう。

委員

- ・ 富山市は合併して面積の 69.5%が山林になった。まちづくりなどについては話し合われているが、70%の山林の管理は誰がするのか。P7-8 の「③持続可能な都市づくり」の中で「・・中山間地域においては過疎化が進行し（略）」とあるが、中山間地の山の管理の担い手不足の問題、施策について具体的に入れてほしい。

部会長

- ・ 具体的な記述として P21 の「政策 3 潤いと安らぎのあるまちづくり」の中に「中山間地域の振興を図ります。」と今回追記した箇所があり、その下に富山市の森林政策として「中山間地域の振興」とある。富山市では森林の整備計画等も策定されることになっている。森づくりは非常に難しいが重要である。

委員

- ・ 「政策 3 潤いと安らぎのあるまちづくり」の中だけで山間地の問題を取り上げられるのは、少し心配である。(2) の「政策 1 人にやさしい安心・安全なまちづくり」、災害のない富山市を目指す中に山間地の問題についての表現があってもいいのではないか。ハードが問題なので、「潤い」という中だけで取り上げられるのは心配。

部会長

- ・ p21 の (2) 政策 1 の「主要施策 (1) 災害に強く回復力のある安全なまちづくり」のところが、森林の高次機能的なところが該当すると思われるので、ここで社会資本ストックや、自然資本という言い方で書くことも考えられる。

委員

- ・ P8 の「⑤共生の社会づくり」の中で「・・・振興住宅団地への転入者や住民の入れ替わりによる地域への愛着・帰属意識の低下（略）」とあるが、他方では転入者の定住、交流の拡大が求められると書かれている。
- ・ P14 の「⑩シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成」の中で「いつまでも『住み続けたい』と思ってもらえる・・」とあるが、「思ってもらえる」という表現はおかしいのではないか。転入者を対象としているのならば失礼であると感じる。

部会長

- ・ 転入者についての記述だが、近年 U ターン、I ターン推進が図られている中で、転入者を受け入れたとしても、共生の社会作りが実現できるという方向で考えていくことが重要。

- ・ 「思ってもらえる」という表現は読みようによっては、市（行政）と住民の 2 つ主体が別にあるようにとらえられる。あくまでも市民が「思う」で、それは市全体としての考えであるので、「市民が思える」がよいのではないか。

委員

- ・ P8「④高次都市機能と産業の集積を活かした活力づくり」の中で富山は水深 1,000m～海拔 3,000m を強調する一方、そのような自然環境であることにより、断層や川の氾濫等の自然災害もあるので、災害に強い、安全安心を考える場合、断層や波による浸食の問題等について具体的にに入れてほしい。

委員

- ・ P21 の政策 2 の「施策（3）まちなか居住の推進」と書かれているが、市民がみなまちなかに行ったら山間部に住む人がいなくなる。山間部にも農業を始めるような若者が住んでいるし、住みたいという人もいるということも考慮してほしい。

部会長

- ・ それはいたるところに関係してくる問題。

委員

- ・ まちなか居住は、市街地の郊外に住んでいる人を中心部に集めることで、山間部での居住を否定しているわけではない。誤解がないような説明が必要である。

部会長

- ・ 中山間地域から人を集めるということではない。コンパクトシティも同様である。

委員

- ・ P21 の（2）の「政策 1 人にやさしい安心・安全なまちづくり」の中で食の安全にも触れられているが、戦後 70 年で農地が荒れ、土中の微生物も失われ、戦前に比べて野菜の栄養価も低くなっていると聞いた。例えば農薬に頼らないような土づくりについても入れてほしい。

部会長

- ・ 「衛生環境や食の安全」に含まれていると考えるが、基本計画、実施計画の中で土づくりについても入れていいのではないか。実際にここに入るかどうかは今のところは判断できない。

委員

- ・ 富山湾や山など景観も美しいところがあるが、駅なども離れており、人が集まる市場がない。
- ・ 富山市はコンパクトシティと言われているが、合併し広くなったことで、富山市全体の中で中心部以外の旧町はその自覚がない。
- ・ 中心部から離れた旧町は死んでおり、市全体としての盛り上がりはない。転入者も含めたコミュニケーションをよくする社会づくりを。
- ・ 細い道の除雪ができないから市の中心地に転居した。住んでいる人の意見を聞くべき。
- ・ 協働の起点は町内。

委員

- ・ コミュニティ、市民参画がこれからはもっと重要になるので、市民の支えあいなどへのボランティアよりも一歩進んだインフォーマルな支援が必要。
- ・ 雇用の創出については、補助金を出してほしいということではなく、市民がビジネスを生み出せるような施策が必要では。

部会長

- ・ コミュニティを含め、行政と市民の中間帯を強化する。

委員

- ・ 基本構想には必ず人口の見通しがあるが、所得の実情については取り上げていない。富山市は地方都市の中では所得が高い（実質所得は日本一）地域であることについて触れてもいいのではないか。

部会長

- ・ 暮らしやすさには所得についても含まれる。背景認識として入れることも考えられる。

委員

- ・ 富山市の交通機関は串と団子と言われているが、団子の中身はどうするのか、協働はどのように進めるのか。地域だけで孤立するのではなく、他の地域との情報交換、人材交換についても入れてほしい。その上でさすが富山市と言われるようにしていけたらいい。

部会長

- ・ 前回の部会でネットワークが指摘されたことも鑑み、特性の違う他地域と補い合い、情報交換をしながら質を高めようという観点を含め、今回は多様性について捉えられている。今後、基本計画等の策定に生かしていければ。
- ・ 本日で基本構想についての部会レベルでの議論は最終となる。29日に開催される調整部会で改めて検討する。

以上